遭難と運動会と台風

黒部・薬師沢（2020/9/5-7）

Ｈロ、Ｏ（他会）、Ａ部（他会）

Ｉ．遭難騒ぎ

ゴォオー、…ゴォオー、…ゴォオー、…、Ｔっちゃんの轟音イビキを聞くのも久し振りだ。一緒に山に行くのは実に２年振りだろうか。道の駅・奥飛騨上宝で仮眠をし、明るくなってから有峰林道へと車を始動させる。
岐阜方面からのルートは土砂崩れで１年以上閉鎖されていたが７月末にようやく再開された。途中通過していくのんびりとした山之村の景色も懐かしい。

７時、折立に到着。土曜日ではあったが意外にも登山口近くの駐車場に車を停められた。向かいのキャンプ場にはロープが張られ『熊異常出没 異常行動により 閉鎖中』と看板が立てられていた。８：１０着のバスでやって来るＯさんとはここで待ち合わせている。今回は２０年来のメンバーでの薬師沢行である。ここにＫさんが加わればフルメンバーであるのだけれど。

Ｏさんがバスから降りてきてデポする荷物を車に置いて出発した。しかしマスクを忘れたことに気が付いて引き返し、改めて出発は８：３０となった。今年はマスクが必携品なのだ。

Ｔっちゃんを先頭にして太郎坂を上がって行くことにした。
「コロナで全然運動してないから体力無くなっちゃってるわ。ごめんね。ゆっくりでいい？」
そう言いながらも頑張って足を上げていたが、三角点まで来るとさすがに誤魔化しが効かなくなったようだ。
「もう足がつっちゃいそう。自分のペースでゆっくり行くんで、お二人薬師沢まで先に行って釣りしてて。何度も来てるし一本道だからさぁ。」
それでＯさんと先へ行かせてもらうことにした。

太郎平に１２：０５着。雲が広がっていて薬師岳は隠されてしまっていた。さて、ここで昼食にするのだが、こないだＨ麻が美味しそうに食べていた太郎平小屋名物“太郎ラーメン”を注文してみた。確かに！ギョウジャニンニクの香りが効いたスープが美味しかった。

ところで４０分待ってもＴっちゃんの姿が見えない。木道の端まで行って眺めてみたがそれらしい姿も見当たらない。薬師沢まで先に行っててくれと言われたし、ここで待っていても冷えるだけだし、１２：５０まで待って出発した。

急な下りを下りきって薬師沢の流れに絡んでくるとＯさんが忙しくなってくる。
「おーい、ブルーベリーあったぞぉー。」
木道脇をガサゴソ探して実を見つける。
「ワタシこれが楽しみで薬師沢来とるんです。」

１４：３５、薬師沢小屋に到着。小屋の前のテラスから川床を見下ろすと流れは浅く岩が多く露出している。
「ひゃぁー、水少ねぇー、水少ねぇー。渇水しとる。」
　と言っている矢先、ポツン、ポツンと大粒の雨粒が落ちてきた。そして加速度的に雨足は強くなり、小屋に引き上げると間もなく雨はすごい音を立ててスコールとなってしまった。
「はぁ…、ワタシらすごいタイミングで着いたんですなぁ。」
　いやいや、まさに。…しかしＴっちゃんはどうしたろう。

　その時小屋は緊迫したムードに包まれていた。遭難者が出たのだ。６０～７０代の年輩４人組が赤木沢へ入り、２番目の滝を上がる際、３人は右から１人は左から巻いたそうだが、その１人が行方不明になったと言うのだ。３人が薬師沢小屋まで戻り捜索を依頼した。小屋番のＡ塚さんが無線で連絡をしている。しかし雨がひと段落しないと捜索は始められない。

　１６時近くになってようやく雨が上がると爆音が聞こえヘリコプターの捜索が始まった。
　依然Ｔっちゃんはやって来ない。さすがに心配になってＯさんと捜索に出ることにした。玄関で用意をしていると小屋の食事担当であるＹとさんが
「釣りですか？いいじゃないですか。久しぶりの増水で魚が活性化してるかも。」
「いや、実は…。」

　カベッケヶ原の濡れた木道を歩きズンズン進んでいった。下手をしたら太郎平まで行ってない所で倒れてやしないか。そうすると往復で４時間は掛かる。サブザックにヘッデンはちゃんと入れて来た。
　２０分ほど歩き湿原が終わりそうな所まで差し掛かった時、見慣れたレモン色のヤッケが目に入った。
「Ｔっちゃーん！どうしてた？」
「エヘヘェ、太郎（平）に１３時に着いて、きつかったから最初からきっちり１時間休んでから行こうと思ってたのね。そいでそろそろ行こうとしたらすごい雨になっちゃったんでこりゃあダメだと思って雨宿りすることにしたんだよ。小屋の前に５cmくらい水が溜っちゃってひどいことになってた。」
　まあ無事で良かった。小屋に戻ってＹとさんに無事を伝えると
「探しに来てくれてきっと嬉しかったんじゃないですか」と言ってくれた。

　川にも濁りが出ておりこの時間から釣りに出てもなぁということで取り敢えず２階のテラスでビールを飲むことにした。
　玄関前のテラスには１０人ほどが集まっていた。一人は長身のインド人で彼がリーダーのようだ。明日は赤木沢へ行くらしい。仲間が川で釣りをしておりそれを見ながらみんな大声と大きなアクションではしゃいでいる。一人外国人が居るだけでみんな外国人っぽく振る舞うから不思議だ。

　自炊室に移り夕飯の準備を始めた。釣りをしなかったので夕食にイワナ料理は無し。レトルトカレーとＴっちゃんが持ってきたタンドリーチキンというメニュー。そこにＯさんが持って来てくれたワインが加わる。今回は５本も持って来てくれたのだ。

「さすがにビングチでは持って来れんかったけど、その代わりほれ。ペットボトルに３等分にした線引いてきました。」
　白、赤を１本ずつ開けた後、“ロレーヌ”という甘く濃い目のワインが出てきた。
「これワタシ好きなんですわぁ。食後の〆にいいんです。」
　こちらのペットボトルには５本の線が入っていて
「こいつは今日と明日どっちも飲みましょう。それと…。」
　出してくれたのはＯさんの奥さんお手製のカヌレ。これがホント美味しい。食べてポワ～っと鼻から抜ける香りが堪らない。幸せなベツバラなのである。

　ところで例の遭難者だが無事が確認されていた。他のメンバーと離れてから一人で黒部五郎小屋まで行っていたそうだ。何かおかしな話しだ。

Ⅱ．イワナの運動会

　６時起きで朝は炒飯。ゆっくり準備して７時半に釣りに出発する。Ｔっちゃんは
「まだ疲れてるんで小屋で寝てて午後から合流するよ。二人で行って来て。」
　前にもこういうことがあった。Ｔっちゃんが一人テントに残り、みんなが釣れずに帰って来ると周辺でこっそり爆釣してたってことが。まさかそのパターンを狙っているのでは？

　大東新道をＡ沢まで下ってから釣り上がることにした。竿を伸ばし、さあ始めるとするか。下流方面を見ると陽が射し込み平らな水面全体が眩しく光っていた。
　小屋で一緒だった背の高い外交官（オージー？）が高天原に向かって歩いて行くところに出くわした。連れの日本人らしき女性はとても美しかった。挨拶し僕らは釣りなんですと言ったら
「ウンはイイですか？」と聞いてきた。日本語がカタコトなので台湾美人かしら？
「いや、あんまり釣れないんですよ」とイヤイヤと手を振りながら答えたら
「ハハハ…、グッラック！」と言ってくれて先へ行った。
　後で考えたら「腕はいいですか？」と聞かれたのかな。それだったらああ答えたのも会話になってたんだな。

　渇水が続いていたせいで川の中の白い岩には黄土色の苔が付いていて滑りやすい。慎重なアプローチをさらに慎重にしなければならない。
　釣りの方はなかなか渋くやっとガッとした当たりがあったものの食いが浅く逃げられた。まだ水が少なくて警戒心が強いのかもしれない。
　やっとしっかりした手応えが来た。ラインが張り水中に抗う力を感じた。下流に向かうのを竿を立てて向きを変えさせた。竿のたわみを感じながらさらに竿を立て魚の頭を水面に出させる。河原に引き上げようやく１尾目が上がった。

　下流部は川幅が広いが岩が点在しているため徒渉できる場所が多い。ポイントを狙いながら適当に進んで左岸側へ移った。広い川幅をＯさんと向き合うような位置関係で進んで行く。

しばらく当たりが無かったがようやく手に来るものがあった。竿から感じる手応えはさっきより大きい。潜ろうとする力が強い。しかし上げてみるとヒレの下に鉤が掛かったスレだった。黒っぽい色をしている魚体を河原に下ろすと斜めに僕を見上げている。イワナって可愛い。

「いやぁ、ブドウ虫は全然ですわ。」
餌釣りのＯさんにはまだ当たりが無かったが、１０時半を回ったのでいったん小屋へ戻ることにした。
途中の『魚飛びの滝』で魚が滝を上ろうと跳ね上がったのが見えた。まさに名の通り。試しにＯさんに竿を出してもらったが反応なく竿を収めることになった。

小屋が見えるとその手前でレモン色のヤッケが竿を出していた。９時過ぎから竿を出して５尾釣ったと言う。またあの手だったか。
「小こいのばかりなんで逃がしたけど。」

昼時に差し掛かるので玄関脇のテラスでラーメンを作ることにした。ちょうどそこへ２人組が小屋に到着した。こんな時間に？と思ったら昨日は折立で車中泊して朝一で出発したそうだ。Ｋ田さんという小屋の常連で、釣り目的で今日から４泊するのだそうだ。
「ちょっと明日から天気がねえ」と言う通り台風の影響が出てきそうな予報である。午後の釣りが重ならないよう僕らは薬師沢に向かうと伝えた。
（このＫ田さん、８月に会った尺顔さんが「俺よりＫ田さんの方が顔デカいよ」と言っていたあのＫ田さんだが、僕の見たところ尺顔さんの方がデカいんじゃないかと思う。）

１２時から薬師沢に向かった。Ｔっちゃんが
「少し遅れてくよ」とまたあの手をほのめかした。
昨日の雨の濁りも取れ薬師沢の流れは澄んでいる。が、河原の岩にはやはり黄土色の苔が多い。平坦な流れが蛇行して続いていく。当たりはほとんど無く釣れても魚は大きくない。

離れたところにＯさんの姿が見えた。川に背を向け屈んでいる。釣れたのだ。そしてこちらを向くと手を挙げた。生かし魚籠を持って近づいて行くと、むんずとイワナをつかんで歩き出した。今日一番大きなイワナだ。
「谷に入ってようやく釣れるようになりましたわ。ワタシの釣りには谷の方がおうとるのやと思います。」

Ｏさんが途中の淵で粘っているのを遠巻きに越えた。流れが左に折れ段々の流れから続く緑色の広い淵が現れた。淵の終りで小さいのを釣り上げリリース。巨岩に上がり見下ろすとゆっくり泳ぐイワナの姿がいくつか見えた。毛鉤を送ってみたが興味を示さない。早くも見限られたようだ。手応えの無い毛鉤を打つのは虚しい。時計を見ると１６時。魚も確保できているし時間的にもそろそろいいかな。
Ｏさんを待ち、巨岩から見えるイワナを狙ってもらった。長い竿で餌を送り込む。すると魚が寄って来るのが見えた。しかし餌にではなくオレンジ色のマーカーを突いて来たのだ。あそこに鉤をつけてれば…というやつである。

結局淵の小賢しいイワナは釣れず納竿とした。戻る途中、さっきＯさんが粘っていた所に差し掛かると
「いやー、あそこの淵はすごかった。イワナが運動会しておりましたわ。デッカイのがおったんですが、あれは釣れんかったぁ。」

小屋に戻り自炊室を占領して夕食に取り掛かった。ビールを飲んでからＯさん待望のイワナの唐揚げを作る。
「んー、うまい！これやね。やっぱりこれやね。おかげ様で今年も黒部源流のイワナを食えたというもんですわ。」
ご飯のおかずに麻婆春雨を作り、お酒の方は今晩も目盛りにしたがって赤１本、白１本、それと“ロレーヌ”をいただく。そして今日もカヌレが出てきたのだ。あぁ、あぁ、ありがたや～。

残っていたウィスキーを飲みながら話しをしていたら、仕事を終えたＹとさんとＫさんも自炊室に来て加わってくれた。
今日の泊り客は９人だがそのうち８人が釣り客だと言う。本当に変わった山小屋なのだ。しかも従業員も釣りが大好きだし。
「あたし今日頑張ったんだ。布団干して煮物とか全部やって、それで２時間半時間作って、久～し振りに釣りさせてもらった。あぁ、楽しかったなぁ。」
薬師沢小屋の楽しい話しをしていたらもう消灯時間になってしまった。明日は台風の影響をできるだけ受けないよう早目に小屋を出て下山しようと思う。

Ⅲ．台風の中の下山

朝はお茶漬けでサラッと済ました。荷物をまとめ小屋の前のテラスで支度を整えながら空を見ると、高層にある白い雲は動いていないが、中層のグレーの雲が北西に向かって早い動きをしていた。雨こそ降っていないが不穏な空模様である。小屋のメンバーに別れを告げて６：５５に小屋を発った。

カベッケヶ原では時折一面の草がフワァーっとなびく。台風が爪の先でちょっかいを出しているような感じである。カベッケヶ原を抜けると途端に風が遮られた。

薬師沢と並行する木道からは薬師岳に向かって中層の雲が動いて行くのが見える。太郎平はどんな状況だろう。

第一渡渉点からの急な上りはそれぞれのペースで行くことにした。トップはもちろんＯさんだ。
何度通ってもキツイ上り。ようやく視界が開ける所まで上ると黒部五郎岳の背後からグレーの雲が湧き出し雲ノ平スレスレに伸びているのが見えた。背後にある水晶岳、鷲羽岳は隠されてしまっている。

ようやく上りが終わり木道に出た。太郎小屋や薬師岳が見える素晴らしい景観なのだが、今日は景色を愛でてはいられない。吹きっさらしのその場所では時折突風によろめき、ストックを突いて耐える。風の機嫌を伺いながら隙を突くように歩く。

９時、太郎平小屋は強風の中に在った。小屋の前にある吹き流しはまっすぐ真横に緊張したように震えている。風が避けられる小屋の前の囲いの中で一休みさせてもらった。
Ｔっちゃんを待つ間、小屋のテレビを覗くと、台風１０号は九州をかすめて北上し日本から離れて行きそうな位置にあるようだ。ただし強風圏の円の中にこの辺りもしっかり含まれている。
Ｔっちゃんも辿り着いたが今は動く時ではない。囲いの中には僕らの他に男女二人組と単独のお兄さんも居た。

突風は吹いていたが、心なしかピークを過ぎたと思えた時、男女二人組が下山を開始した。僕らもザックを担ぐと、続くように単独のお兄さんも外へ出た。

風は強いが視界は良く、木道からは富山湾まできれいに見えている。下って行くと太郎山の影となって幾分風が遮られる。
それでも稜線は稜線であり、時どき来る突風には体を屈めて耐える必要があった。
「僕遅いから先行ってて。後はこれ下ってくだけでしょ」とＴっちゃんが言ったが
「ダメだよ。飛ばされる可能性もあるんだから団子になって行こう。」

風は左側から押してくる。ただしちょっとでも斜面の影に入ると嘘のように風が収まる。樹林帯に入りさえすれば楽になるはずだが、この吹きっさらしの尾根が長い。

やっと三角点に着くとＴっちゃんは長めの休憩が欲しかったらしく
「さすがにここまで来れば風に飛ばされることもないから先行ってて」と言った。

１１：５０、折立に到着。２０分遅れてＴっちゃんも下りて来た。車の脇でカップ麺を作るつもりだったが風が強いので取り敢えず東屋まで移動することにした。
有峰林道の道の上には台風で折られた小枝が散らばっておりタイヤの下でパチパチと音を立てる。もう少し前はもっと荒れていたのかもしれない。

その後、『ひらゆの森』に立ち寄ってからＯさんを送りに松本駅へ向かう。１９時過ぎの列車を取っていたが、早いタイミングで戻って来れたので１７時台の列車にも間に合いそうだ。

有峰林道からの車中、尺顔さんに聞いた南アルプスで釣りができる山小屋について話しをしてみた。Ｏさんが携帯で調べてくれて
「ほぉほぉ、こんなんでっか」とどういう所か読み上げてくれた。
それを聞いていたＴっちゃんが
「じゃあさぁ来年はさぁ、薬師沢とそこと２回行こうよ」と言った。おぉ、いいなぁ。何だか面白いことになりそうだなぁ。

（Ｈロ 記）